

指定管理者評価票（平成30年度分）

全般的事項

施設名称：瑞穂町立石畑保育園
 担当部課係：福祉部 子育て応援課 保育・幼稚園係

1 指定管理者の名称	社会福祉法人 武蔵村山育成会
2 指定管理の期間	平成30年4月1日から令和5年3月31日まで5年間
3 指定管理の目的及び求める効果	女性の社会進出や少子化対策などの面から保護者の要望が多様化しており、その実現を図って行くうえで、民間活力の導入により、様々な保育ニーズに対し、柔軟に対応していく。
4 指定管理の業務内容	1 公の施設として、公平な運営を行うこと。 2 入所児童の処遇向上に努めること。 3 現行の保育事業の継続性を保つこと。 4 個人情報の保護と適切な管理を行うこと。 5 効率的運営を行うこと。
5 施設の概要	
(1)施設及びサービスの内容	地域に開かれ、親しまれる保育園を目指し、保育園近隣で子育て支援を望む人たちに対して、保育園が持っている能力の範囲内で、地域の子育てを支援する。
(2)規模	敷地面積：2,284.11 m ² 建物面積：791.635m ² 構造：鉄筋コンクリート造
(3)設備内容	保育室、遊戯室、事務室兼医務室、休憩室、給食室、食品庫、便所、シャワー室、玄関、職員休憩室、配膳室、調乳室、沐浴室、布団庫、プール
(4)設置年月及び経過年数（導入時）	平成10年4月1日、経過年数19年 （導入後10年経過）
(5)建設費用	●東部児童館及び石畑保育園等総合施設新築工事：96,216,420円 ●石畑保育園仮園舎設置等工事：24,514,000円（以上平成8年度） ●東部児童館及び石畑保育園等総合施設新築工事（2期）：633,765,300円 ●石畑保育園併行防音工事：36,750,000円（以上平成9年度）
(6)大規模改修の経緯と費用	●2階テラス壁コーティング工事：壁面にクッション材をコーティングし、園児の安全確保のために実施、工事費1,309,350円（平成24年度） ●園舎木床改修塗装工事：裸足保育等、園児の安全確保のために実施、工事費2,650,545円（平成27年度） ●児童館等複合施設外壁等改修工事20,304,000円（平成30年度）
(7)維持補修・改修の予定及び時期	●児童館等複合施設空気調和設備機能復旧工事（令和2年度）
6 指定管理における具体的な目標	
(1)利用者へのサービス水準の向上目標	「いきる喜びとしあわせをはぐくむたのしい保育園を目指します」の理念を掲げ、保育の質の向上に努める。園内研修の充実、外部研修への積極的参加、他園との交流及び情報交換等、職員の共通理解を深め、さらなるチームワークで保育を行う。また、子どもたちが安心して遊べる保育環境を作る。
(2)運営の効率化に関する目標	P D C A（計画・実行・評価・改善）サイクルを行い、常に保育サービスの向上を目指す。第三者評価の受審、利用者に対する調査や評価結果を反映させる。
(3)施設維持管理費に関する削減目標	事業計画に沿った施設・設備の維持管理を行い、経費の削減を行う。
(4)その他の目標	ホームページ、情報誌「オアシス」の充実、パートナー保育の実施等の事業展開により、地域のホットステーションを目指す。また、小学校（児童及び職員）とのつながりを深め、就学に向けて段差のないスムーズな移行を目指す。
7 モニタリング（利用者の意見把握）の内容	平成30年度は、第三者評価・利用者アンケートを未実施とし、個人面談（年2回、必要に応じて随時）、懇談会年3回程度、ご意見・ご要望BOXの設置、おたより帳や送迎時の聞き取りにより意見を把握し対応した。園の運営等に対する意見はなく、児童個別の相談等があり、苦情は皆無であった。

指定管理評価票（平成30年度分） 個別項目・総括

施設の名称： 瑞穂町立石畑保育園
 担当部課係： 福祉部 子育て応援課 保育・幼稚園係

業務評価指標		前指定末 (H29)	H30	H31. R1	R2	R3	R4	
協定書・仕様書で示した事項	11時間開所(実施日数)	293	292					日
	延長保育(利用人数)	123	173					人
	産休明け保育	実施	実施					
	障害児保育(入所人数)	6	8					人
	一時保育(利用人数)	1,292	881					人
	アレルギー対応給食 (除去食等提供人数)	5	5					人
開館日数等(条例で示した施設目的の達成度)	実開館日数	293	292					日
維持管理状態	冷暖房設備	2	2					回
	消防用設備	2	2					回
	清掃	6	6					回
	樹木整備	1	1					回
	修繕	4	7					か所
職員数の確保及び適切な配置 (※平成24年度分より追加)		国が定める 保育士の配 置基準に基 づき配置	国が定める 保育士の配 置基準に基 づき配置					

インプット指標(行政資源(歳出・人・物)の投入量)		前指定末 (H29)	H30	H31. R1	R2	R3	R4	
指定前の管理経費(町支出)または指定管理料(委託料)	201,518,340	218,914,090						円
指定前の管理経費(町支出以外)または指定管理料以外の支出金額	42,000	42,750						円
職員の投入実態	425,000	425,000						円 (時間*人/週)
物品の提供実態	0	0						円
インプット指標合計	201,985,340	219,381,840						円
提供物品の名称と数量:	なし	なし						

アウトプット指標（事業の活動量、活動実績）

前指定末
(H29)

H30

H31. R1

R2

R3

R4

		前指定末 (H29)	H30	H31. R1	R2	R3	R4	
施設延べ利用者数		1,344	1,368					人/年間
年齢別児童 時点：年度末 (カッコ内は町外園児で内数)	0歳児 定員 9名	9 (0人)	9 (0人)					人/年間
	1歳児 定員 11名	16 (0人)	16 (0人)					人/年間
	2歳児 定員 18名	18 (0人)	18 (0人)					人/年間
	3歳児 定員 22名	23 (1人)	22 (0人)					人/年間
	4歳児 定員 24名	24 (0人)	25 (1人)					人/年間
	5歳児 定員 26名	22 (2人)	24 (0人)					人/年間
	合計 定員 110名	112 (3人)	114 (1人)					人/年間
施設稼働率 (施設稼働日数及び貸出日数)	開園日数	293	292					日/年
	稼働日数	293	292					日/年
	稼働率	100%	100%					
利用料収入（延長保育料・一時保育料）		3,583,900	2,049,000					円
個人情報の保護	前指定末 (H29)	①「社会福祉法人武蔵村山育成会個人情報保護規定」「守秘義務プライバシーに関する注意事項」等を全職員に配布し、それに基づき園内研修を実施した。また「秘密保持誓約書」を交わし、個人情報等の保護に努めている。 ②会議の終了時には、「守秘義務」があることを職員に伝え、再確認し、情報の漏えい防止に努めている。 ③パソコン及びUSBの管理等を徹底し、情報の漏えい防止に努めている。						
	H30	①「社会福祉法人武蔵村山育成会個人情報保護規定」「守秘義務プライバシーに関する注意事項」等を全職員に配布し、それに基づき園内研修を実施した。また「秘密保持誓約書」を交わし、個人情報等の保護に努めている。 ②会議の終了時には、「守秘義務」があることを職員に伝え、再確認し、情報の漏えい防止に努めている。 ③パソコン及びUSBの管理等を徹底し、情報の漏えい防止に努めている。						

<p>安全安心面からの管理運営</p>	<p>前指定末 (H29)</p>	<p>①食育…食育計画に基づき、食育検討委員会が中心となり、年間を通して食育活動を実施した。園庭での野菜づくりに加え、法人の畑での芋掘りや大根掘り、みかん狩り等の活動を通じて、食への関心が高まっている。喫食状況、箸の使い方等、栄養士がクラスを巡回し、直接指導及び援助することで、食に関する意識が高まるように配慮した。保護者に対しては、懇談会を利用し、給食の試食会や講習会を実施し、食育の啓発に努めた。食材は、できる限り新鮮な国産の物を使用し、安全・安心に配慮した。保護者の要望があれば、産地のリストも開示できるように整備した。</p> <p>②環境…リスクマネジメント委員会を設置し、リスクマネージャーを中心に、毎日の安全確認に加え、遊具及び備品等の点検を行い、安全で安心できる環境を整えた。また、ヒヤリ・ハット報告書、アクシデント報告書の提出を義務付け、情報を共有することで職員の安全に対する意識を高めるように配慮した。子どもたちに対しては「安全集会」を開き、安全に対する知識を高めたり、専任講師による体育指導や「体幹を育てる遊び」を通して、自分で自分の身を守る力が付くよう取り組んだ。</p> <p>③防災…「石畑保育園消防計画」に基づき、毎月避難訓練及び消火訓練を実施し、消防署による消火訓練、通報訓練も実施した。また、「災害時対応マニュアル」「石畑保育園BCP」を作成し、災害時に備えている。補助金を利用し、テント、水取ポンプ、備蓄品（非常食）の補充を行った。</p> <p>④備蓄品…備蓄品（食料、水、使い捨てトイレ等）は、園児と職員の約3日分を想定し準備している。また、非常食の献立表を作成し、すぐに活用できるようにした。さらに、地域の8事業所と「災害時における物資の供給に関する協定書」を締結し、災害時の物資の供給がスムーズに行えるように準備している。</p> <p>⑤救命…緊急時に備えて、AEDを購入し、設置している。また、消防署による普通救命講習会を実施し、全職員が「救命救急技能認定証」を取得し、必要に応じて更新した。また、「アレルギー対応」「けが事故発生時対応」等の園内研修を実施した。</p> <p>⑥「見守り隊」の配置…シルバー人材センターに依頼し、西門が開錠されている時間帯の不審者侵入対策及び子どもの飛び出し等の事故防止に努めている。</p> <p>⑦不審者…「不審者侵入時対応マニュアル」を作成し、全職員に周知している。また、福生警察署に依頼し、防犯研修を実施した。大きな行事（ニコニコまつり、運動会等）にはシルバー人材センターに依頼し、「見守り隊」を配置し、事故防止及び防犯に努めた。</p> <p>⑧緊急時…一斉送信メールシステムを導入し、災害発生時等の連絡体制を整備している。</p> <p>⑨熱中症対策…園庭に3本のカンタンミスト（ミストシャワー）を設置した。</p> <p>⑩その他…「散歩マニュアル・マップ」を作成し、散歩や園外保育に出かける際の安全に配慮した。</p>
	<p>H30</p>	<p>①食育…食育計画に基づき、食育検討委員会が中心となり、年間を通して食育活動を実施した。園庭での野菜づくりに加え、法人の畑での芋掘りや大根掘り、みかん狩り等の活動を通じて、食への関心が高まっている。喫食状況、箸の使い方等、栄養士がクラスを巡回し、直接指導及び援助することで、食に関する意識が高まるように配慮した。保護者に対しては、懇談会を利用し、給食の試食会や講習会を実施し、食育の啓発に努めた。食材は、できる限り新鮮な国産の物を使用し、安全・安心に配慮した。保護者の要望があれば、産地のリストも開示できるように整備した。</p> <p>②環境…リスクマネジメント委員会を設置し、リスクマネージャーを中心に、毎日の安全確認に加え、遊具及び備品等の点検を行い、安全で安心できる環境を整えた。また、ヒヤリ・ハット報告書、アクシデント報告書の提出を義務付け、情報を共有することで職員の安全に対する意識を高めるように配慮した。子どもたちに対しては「安全集会」を開き、安全に対する知識を高めたり、専任講師による体育指導や「体幹を育てる遊び」を通して、自分で自分の身を守る力が付くよう取り組んだ。</p> <p>③防災…「石畑保育園消防計画」に基づき、毎月避難訓練及び消火訓練を実施し、消防署による消火訓練、通報訓練も実施した。また、「災害時対応マニュアル」「石畑保育園BCP」を作成し、災害時に備えている。補助金を利用し、テント、水取ポンプ、備蓄品の補充を行った。</p> <p>④備蓄品…備蓄品（食料、水、使い捨てトイレ等）は、園児と職員の約3日分を想定し準備している。また、非常食の献立表を作成し、すぐに活用できるようにした。さらに、地域の8事業所と「災害時における物資の供給に関する協定書」を締結し、災害時の物資の供給がスムーズに行えるように準備している。</p> <p>⑤救命…緊急時に備えて、AEDを購入し、設置している。また、消防署による普通救命講習会を実施し、全職員が「救命救急技能認定証」を取得し、必要に応じて更新した。また、「アレルギー対応」「けが事故発生時対応」等の園内研修を実施した。</p> <p>⑥「見守り隊」の配置…シルバー人材センターに依頼し、西門が開錠されている時間帯の不審者侵入対策及び子どもの飛び出し等の事故防止に努めている。</p> <p>⑦不審者…「不審者侵入時対応マニュアル」を作成し、全職員に周知している。また、福生警察署に依頼し、防犯研修を実施した。大きな行事（ニコニコまつり、運動会等）にはシルバー人材センターに依頼し、「見守り隊」を配置し、事故防止及び防犯に努めた。</p> <p>⑧緊急時…一斉送信メールシステムを導入し、災害発生時等の連絡体制を整備している。</p> <p>⑨熱中症対策…園庭に3本のカンタンミスト（ミストシャワー）を設置している。</p> <p>⑩その他…「散歩マニュアル・マップ」を作成し、散歩や園外保育に出かける際の安全に配慮している。</p>

入所者の要望の把握及び苦情処理体制	前指定末 (H29)	【入所者の要望把握】 ①個人面談で要望を把握した。(乳児年2回、幼児年2回ほか、必要に応じて実施) ②懇談会で要望を把握した。(年3回程度) ③ご意見・ご要望BOXを設置し、無記名でも意見が出せるように配慮した。 ④おたより帳や送迎時の聞き取りにより要望を把握し、対応した。 ⑤行事後にはアンケートを取り、翌年の行事内容に反映させている。 【苦情処理体制】 ①「石畑保育園苦情対応規定」に基づき、意見・要望等受付責任者・担当者、第三者委員を配置し、体制を整備している。 ②保護者に対しては、ポスターを掲示した。また、パンフレットを作成し、入園のしおりに入れ込み、懇談会で周知した。
	H30	【入所者の要望把握】 ①個人面談で要望を把握した。(乳児年2回、幼児年2回ほか、必要に応じて実施) ②懇談会で要望を把握した。(年3回程度) ③ご意見・ご要望BOXを設置し、無記名でも意見が出せるように配慮している。 ④おたより帳や送迎時の聞き取りにより要望を把握し、対応した。 ⑤行事後にはアンケートを取り、翌年の行事内容に反映させている。 【苦情処理体制】 ①「石畑保育園苦情対応規定」に基づき、意見・要望等受付責任者・担当者、第三者委員を配置し、体制を整備している。 ②保護者に対しては、ポスターを掲示した。また、パンフレットを作成し、入園のしおりに入れ込み、懇談会で周知した。

業務収支

収入の部		前指定末 (H29)	H30	H31. R1	R2	R3	R4	
指定前の管理経費(町支出)または指定管理料		201,518,340	218,914,090					円
指定前の管理経費(町支出以外)または公的援助		467,000	467,750					円
利用料収入(延長保育料・一時預かり利用料)		3,583,900	2,049,000					円
その他収入		6,599,930	6,019,788					円
収入の部 合計	算定	212,169,170	227,450,628					円
	実収入	211,744,170	227,025,628					円

支出の部		前指定末 (H29)	H30	H31. R1	R2	R3	R4	
人件費		164,367,667	170,840,291					円
事務費		8,532,393	8,571,853					円
事業費		18,650,146	19,292,843					円
施設整備費		653,960	0					円
その他支出		17,099,760	24,819,840					円
支出の部 合計		209,303,926	223,524,827					円

収支差引	算定	2,865,244	3,925,801					円
	実収支	2,440,244	3,500,801					円

指定管理者自己評価 ※平成24年度分より追加

コスト削減に対する取組み	前指定末 (H29)	①棚、遊具入れ等を職員が作成し、コスト削減をした。 ②仕事を効率的に行い、残業をなくす努力をした。 ③E S Dの考え方に基づき、節電委員会等を設置したり、ごみの分別及び削減をしたりして、エネルギーの節減に努めた。
	H30	①棚、遊具入れ等を職員が作成し、コスト削減をした。 ②仕事を効率的に行い、残業をなくす努力をした。 ③E S Dの考え方に基づき、節電委員会等を設置したり、ごみの分別及び削減をしたりして、エネルギーの節減に努めた。

アウトカム指標（施設・事業がもたらす効用等）

	<p>前指定末 (H29)</p>	<p>①みんなの広場（園庭開放）…16回実施、234名参加 ②保育所体験の実施…6名参加 ③ブレママ体験の実施…20名参加 ④地域向けの子育て講座（制作・運動遊び、食育、感染予防等）…6回実施 ⑤心身障害者（児）福祉センター「あゆみ」交流会の実施 ⑥高齢者福祉センター「寿楽」交流会の実施 ⑦小学校との連携（学校訪問、小学生の受入、教員との交流） ⑧小中高生の育児体験受入 ⑨実習生、ボランティアの受入 ⑩子育て情報誌の発行（年4回） ⑪職員が研修で学んだことを活かし、保護者向けの「ペアレントサポート講習会（全7回）」を実施し、6名の保護者が参加した。 ⑫学研教育みらいより取材依頼を受け、保育雑誌「ほいくあっぷ」に園での取組が掲載された。 ⑬東京都社会福祉協議会主催のリーダー研修会で、保育士が講師として依頼を受け、「園全体で取り組む個別支援」の発表をした。 ⑭ファミリー・サポート・センター提供会員養成講習会の講師を園長が担い、「保育の心」の講義を行った。 ⑮地域福祉の推進を図ることを目的とした「瑞穂町内社会福祉法人連絡会」に参画し、「総合的な相談窓口」等の設置の準備を進めている。</p>
<p>自主事業の実施状況</p>	<p>H30</p>	<p>①みんなの広場（園庭開放）…16回実施、201名参加 ②保育所体験の実施…10名参加 ③ブレママ体験の実施…6名参加 ④地域向けの子育て講座（制作・運動遊び、食育、感染予防等）…6回実施 ⑤心身障害者（児）福祉センター「あゆみ」交流会の実施 ⑥高齢者福祉センター「寿楽」交流会の実施 ⑦小学校との連携（学校訪問、小学生の受入、教員との交流） ⑧小中高生の育児体験受入 ⑨実習生、ボランティアの受入 ⑩子育て情報誌の発行（年4回） ⑪職員が研修で学んだことを活かし、保護者向けの「ペアレントサポート講習会（全7回）」を実施し、5名の保護者が参加した。 ⑫地域福祉の推進を図ることを目的とした「瑞穂町内社会福祉法人連絡会」に参画し「総合的な相談窓口」を設置し対応した。 ⑬学研教育みらいより取材依頼を受け、保育雑誌「ほいくあっぷ」に園での取組が掲載された。（園内研修について、14ページ掲載） ⑭職員の講師としての活動 ・子ども家族早期発達支援学会学術集会 副主任…「保護者を支える」～ペアレントトレーニングの実践～ ・東京都社会福祉協議会主催 リーダーセミナー 保育士2名…「園全体で活かす特別支援」について ・福祉経営塾フォロー研修 保育士2名…「一人ひとりの強みを生かす人材育成」について ・ファミリー・サポート・センター提供会員養成講習会 園長…「保育の心」として ・瑞穂町母子保健サポーター養成研修会にて（保健センター） 園長…「乳児を持つ親の支援の実際」～保育の現場から～ ・地域向け講習会 保育士2名…「ベビーマッサージ」「ボコアポコカード」について</p>

	<p>前指定末 (H29)</p>	<p>①石畑保育園研修体系に基づき、年間を通して様々な研修を計画的に受講し、保育の質の向上に努めた。 <園内研修> <外部研修> 感染症について……年4回 経営改革の人材育成に関する研修…19名 保育技術について……年3回 事故防止・危機管理に関する研修… 5名 虐待防止について……年1回 保育知識・技術に関する研修………40名 アレルギーについて……年8回 個別援助に関する研修………38名 事故防止について……年1回 保健衛生メンタルヘルスに関する研修…6名 <講師を招いて> 食育・給食に関する研修………11名 普通救命救急講習……年1回 アレルギーに関する研修……… 3名 防犯研修………年1回 虐待予防・地域支援……… 4名 発達障がいについて……年7回 ②「5か年計画（平成25年度策定）」のまとめとして、全職員参画のもと、新たな「5か年計画」を策定した。今までの10年間の保育を振り返り、新たな「保育指針」を読み解きながら策定したことで、保育指針の理解にもつながり、組織力の向上につながった。 ③チャイルドフット・ラボ（代表理事：藤原里美先生）に依頼し、発達障がいを含めた多様な子どもたちの発達支援に関する訪問指導、スーパーバイズ（年5回）を受けた。子ども一人ひとりの発達に応じた支援方法だけでなく、クラス運営や環境設定等保育全般に関する相談も受けられ、毎回、園内研修も実施いただくことで、保育の質向上につながった。 ④子どもたちの転倒による顔面のケガ等が増加したため、平成26年度から「体幹」に着目し、職員の研究テーマに掲げ、研究・実践を重ねてきた。3年かけて「体幹運営表」としてまとめ、日々の保育に活かしている。保護者には懇談会の際に写真や動画で、日々の研究の成果を伝えた。 ⑤「瑞穂町読み聞かせ推進事業」に合わせ、図書委員会を設置し、絵本について学び、情操教育・学習能力の向上等、幼児教育の質の向上につながるようしている。 ⑥「瑞穂町民営保育所業務効率化推進事業補助金」を利用し、保育支援システム（ChildCareWeb）を導入した。ChildCareWebに搭載されている「メカニズム」「保育原理」「発達ビュー」等の機能を通して子どもの本質を理解し、発達の時期や流れ、つながりを知り、「自らの保育が子どもの発達にどのような効果をもたらしているのか」を常に意識した保育ができるよう研修し、活用している。 ⑦食物アレルギー対応の園内研修では、全職員でエビイベントレーターを使った研修を実施し、危機意識を高めた。 ⑧全職員にチャレンジテーマ（目標管理制度）を設定し、年度末に成果を発表することで、保育の質の向上につながった。 ⑨保育士が「子ども家族早期発達支援学会」に所属し、学術集会で実践発表する機会を得たり、東京都社会福祉協議会のリーダー研修会の講師に招かれたり、保育雑誌（ピッコロ、ほいくあっぷ、多様な子どもの発達支援等）に園の取組を紹介していただいたことで、見学者の数も増え、保育士の意識も高まり、保育質向上につながった。 ⑩キャリアアップのための資格取得支援に力を入れており、「早期発達支援士」「ピアカウンセラー」「音楽療法」「ベビーマッサージ」等の資格を取得し、日々の保育や保護者支援に活用した。 ⑪職員のやる気向上と職場への定着率を上げるためのキャリアパスを作成し、全職員参画のもと検討し、保育の質向上につながった。</p>
<p>保育の質の改善（職員研修等）</p>	<p>H30</p>	<p>①石畑保育園研修体系に基づき、年間を通して様々な研修を計画的に実施及び受講し、保育の質の向上に努めた。 <園内研修> <外部研修> 感染症について……年4回 経営改革の人材育成に関する研修…12名 保育技術について……年3回 事故防止・危機管理に関する研修… 8名 虐待防止について……年1回 保育知識・技術に関する研修………20名 アレルギーについて……年2回 個別援助に関する研修………38名 事故防止について……年2回 保健衛生メンタルヘルスに関する研修…3名 <講師を招いて> 食育・給食に関する研修……… 4名 普通救命救急講習……年1回 アレルギーに関する研修……… 8名 防犯研修………年1回 虐待予防・地域支援……… 5名 発達障がいについて……年4回 ②平成30年4月より、新たに「保育所保育指針」が施行された。保育指針の内容を理解し保育実践につなげるために「体幹を育てる遊びを通して10の姿や3つの視点をとらえる」という研究テーマをもって各自が取り組んだ。取り組み結果を全職員の前で発表したり、懇談会で保護者に開示したりすることで、職員と保護者双方の指針の理解につながった。 ③チャイルドフット・ラボ（代表理事：藤原里美先生）に依頼し、発達障がいを含めた多様な子どもたちの発達支援に関する訪問指導、スーパーバイズ（年2回）を受けた。子ども一人ひとりの発達に応じた支援方法だけでなく、クラス運営や環境設定等保育全般に関する相談も受けられ、毎回、園内研修も実施いただくことで、保育の質向上につながった。 ④子どもたちの転倒による顔面のケガ等が増加したため、平成26年度から「体幹」に着目し、職員の研究テーマに掲げ、研究・実践を重ねてきた。3年かけて「体幹運営表」としてまとめ、日々の保育に活かしている。保護者には懇談会の際に写真や動画で、日々の研究の成果を伝えた。 ⑤「瑞穂町読み聞かせ推進事業」に合わせ、図書委員会を設置し、絵本について学び、情操教育・学習能力の向上等、幼児教育の質の向上につながるようしている。 ⑥「瑞穂町民営保育所業務効率化推進事業補助金」を利用し、保育支援システム（ChildCareWeb）を導入した。システムに搭載されている「メカニズム」「保育原理」「発達ビュー」等の機能を通して子どもの本質を理解し、発達の時期や流れ、つながりを知り、「自らの保育が子どもの発達にどのような効果をもたらしているのか」を常に意識した保育ができるよう研修し、活用している。 ⑦食物アレルギー対応の園内研修では、全職員でエビイベントレーターを使った研修を実施し、危機意識を高めた。 ⑧全職員にチャレンジテーマ（目標管理制度）を設定し、年度末に成果を発表することで、保育の質の向上につながった。 ⑨保育士が「子ども家族早期発達支援学会」に所属し、学術集会で実践発表する機会を得たり、東京都社会福祉協議会のリーダー研修会の講師に招かれたり、保育雑誌（ピッコロ、ほいくあっぷ、多様な子どもの発達支援等）に園の取組を紹介していただいたことで、見学者の数も増え、保育士の意識も高まり、保育質向上につながった。 ⑩キャリアアップのための資格取得支援に力を入れており、「早期発達支援士」「ピアカウンセラー」「音楽療法」「ベビーマッサージ」等の資格を取得し、日々の保育や保護者支援に活用した。 ⑪職員のやる気向上と職場への定着率を上げるためのキャリアパスを作成し、全職員参画のもと検討し、保育の質向上につながった。</p>

利用者の満足度（アンケート等客観的もの）	前指定末 (H29)	個人面談、懇談会、おたより帳や送迎時の聴き取りにより、保護者の意見を把握し、随時対応した。ご意見・ご要望BOXを設置しているが、園の運営に対する意見かつ苦情は皆無であった。	
	H30	個人面談、懇談会、おたより帳や送迎時の聴き取りにより、保護者の意見を把握し、随時対応した。ご意見・ご要望BOXを設置しているが、園の運営に対する意見かつ苦情は皆無であった。	
安全管理等 ※平成24年度より追加	前指定末 (H29)	事故・苦情対応	苦情解決制度における第三者委員を地域の民生児童委員2名に依頼し、懇談会等で保護者に周知した。年間を通して大きな事故、苦情は1件もなかった。
		事故防止策	リスクマネジメント委員会を設置し、安全点検に加え、インシデント報告書・アクシデント報告書を集計及び分析し、事故防止につなげている。子どもの「体幹」に注目し、事故予防のための身体づくりを実践した。
		避難訓練等	月1回の避難訓練では、地震、火災、不審者侵入等、様々な場面を想定した計画を立て実践した。児童館との合同避難訓練では、消火栓、ポンプを起動させ、実際に放水したことで防災への意識を高めることができた。BCPの内容を見直し、全職員に周知し大災害にも備えた。
	H30	事故・苦情対応	苦情解決制度における第三者委員を地域の民生児童委員2名に依頼し、懇談会等で保護者に周知した。年間を通して大きな事故、苦情は1件もなかった。
		事故防止策	リスクマネジメント委員会を設置し、安全点検に加え、インシデント報告書・アクシデント報告書を集計及び分析し、事故防止につなげている。子どもの「体幹」に注目し、事故予防のための身体づくりを実践した。
		避難訓練等	月1回の避難訓練では、地震、火災、不審者侵入等、様々な場面を想定した計画を立て実践した。児童館との合同避難訓練では、消火栓、ポンプを起動させ、実際に放水したことで防災への意識を高めることができた。BCPの内容を見直し、全職員に周知し大災害にも備えた。

その他

		前指定末 (H29)	H30	H31. R1	R2	R3	R4		
建設経費（元利返還費用）	建設費	791,245,720	791,245,720					円	
	償還利息	0	0					円	
利用者1人あたりの経費 （指定管理料等及び指定管理料等+建設経費）	利用者数	1,344	1,368					人/年間	
	管理経費または指定管理料等	201,985,340	219,381,840					円	
	管理経費または指定管理料等/人	150,287	160,367					円/人	
	（管理経費または指定管理料+建設費）/人	739,011	738,763					円/人	
修繕費（協定等に基づく指定管理者負担上限額：100万円/件）	指定管理者が行なった修繕		4	7				件	
			528,390	316,492				円	
	町が行なった修繕	コンセント、電話機、西門扉、スチームコンベクションオーブン							
			0	0					件
			0	0					円
		なし	なし						
東京都指導監査	指摘事項	未実施	未実施						
遵法検査 ・法で定められている場合、回数を記載。 ・それ以外の場合、法定外と記載。また、施設独自で同様の検査・指導を受けている場合は、その旨を記載。	冷暖房設備（法定1回）	2	2					回	
	消防法設備点検（法定年2回）	2	2					回	
	管理専用水道検査	非該当	非該当						

※修繕費の項目は平成22年度分評価より記載

総括

		H30	H31. R1	R2	R3	R4
経費比較 (指定前と指定後) ※実経費では、「職員の投入実態」及び「物品の提供実態」を除外	算定	指定後	219,381,840			円
		前指定末 (H29)	201,985,340			円
		比較	17,396,500			円
	実経費	指定後	218,956,840			円
		前指定末 (H29)	201,560,340			円
		比較	17,396,500			円
評価	前指定末 (平成29年度)					
1次評価 担当課	同法人による指定管理者再指定最終年度を終え、安定した保育運営が実施されており、平成30年度から5年間の指定管理者再指定が12月議会で承認された。運営費（公定価格）増、障がい児加算対象児童の入所増、一時預かり利用児童の増により、前指定末より経費は増額となった。講師を招いて障がい児等の発達支援研修を実施したり、関係機関の講師を受けたりすることで、積極的に保育の質向上に努めている。					
2次評価 指定管理者選定委員会	【主な効果】 講師を招いて障がい児等の発達支援研修を実施し、及び関係機関の講師を受けることで、積極的に保育の質の向上に努めている。利用者の満足度も高く、近隣とも良好な関係を築いている。保育の質も高く、安定した保育運営がなされている。 【主な指摘】 保育の質の向上のための研修に毎年積極的に取り組み、内容も充実している。職員のキャリアアップは、利用者の満足度向上策としても有効と思われる。引き続き、質の高い保育を期待する。					
評価	平成30年度（1年度目）					
1次評価 担当課	平成29年12月議会で、平成30年度から5年間の指定管理者として、同法人が再指定され、安定した保育運営が実施されている。前指定末との経費を比較すると、運営費（公定価格）増、東京都補助制度の保育士等キャリアアップ補助金相当分の委託料増により、17,396,500円増額となっている。					
2次評価 指定管理者選定委員会	【主な効果】 平成30年度から5年間の指定管理者として、同法人が再指定され安定した保育運営が実施されている。危機管理をはじめ職員研修の充実を図り積極的に保育の質の向上に努めている。 【主な指摘】 保護者の意見を聴く場をいろいろな機会を捉えて実施しているが、園の運営に対する意見・苦情もなく望ましい状況である。また、職員研修等の実施が、危機管理、職員の資質、保育の質の向上につながっていることから今後も適正な運営に期待する。					